29 進行性筋ジストロフィー症における内分泌的検討

国立療養所西別府病院
三吉野　産　治　　三　池　輝　久
藤　本　茂　紘

〔目　　的〕

進行性筋ジストロフィー症（以下ＤＭＰ症）の原因は今だ不明であり、治療として男性ホルモンやパロチン等が用いられたりした時期がある。また杉浦らの報告では甲状腺と睾丸の萎縮ないし発育不全が認められている。この様に本疾患と内分泌との間には何らかの関与が示唆されており、この点の検討を行うことを目的とする。

〔対象ならびに方法〕

国療西別府病院入院中のＤＭＰ症 Duchenne type を機能障害別に各群より４名、計12名を対象とし、下垂体－甲状腺系、下垂体－体腺系について検討した。

方法は朝９時に第一回採血し直ちにＴＲＨ４μg/kg 静注、さらにＬＨ－ＲＨ２μg/kg を静注負荷、後30分、60分、120 分に第二、三、四回の採血を行った。各々の採血で得られた血漿でT_4、T_3－ＲＵ、ＴＳＨ、ＬＨを測定した。測定法はＴＳＨは固相法によるラジオイムノアッセイ法、ＬＨは二抗体法によるラジオイムノアッセイ法を用いた。T_4、T_3－ＲＵ はテトラリュート、トリリュートを用いた。

〔成　　績〕

T_3－RU を除いて、T_4、ＴＳＨ、ＴＲＨテストは各群の間に大きな相違はみられなかった。T_3－ＲＵ は機能障害が進むほど低下傾向があるように思えた。しかしT_4、ＴＲＨテストを含めて考えると全員正常と考える。

ＬＨについては基礎値も、ＬＨ－ＲＨテストも年令相応の動向、値を示しているが、やや正常下限を示している。

〔結　　論〕

T_3－RU、T_4、ＴＳＨ、ＴＲＨ テストによる下垂体－甲状腺系に関しての検討では全員正常であった。

ＬＨ、ＬＨ－ＲＨテストによる下垂体－性腺系に関しての検討では、全員正常範囲であるが下限傾向を示し、睾丸組織所見とは、あい反する結果を得た。今後テストステロンやＦＳＨの検討が必要と考えている。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔目的〕

進行性筋ジストロフィー症(以下DMP症)の原因は今だ不明であり、治療として男性ホルモンやパロチン等が用いられたりした時期がある。また杉浦らの報告では甲状腺と睾丸の萎縮ないし発育不全が認められている。この様に本疾患と内分泌との間には何らかの関与が示唆されており、この点の検討を行うことを目的とする。